

活動状況報告書

1 事業名称 地域連携自主防災事業

2 実施主体

- 団体名： 栗ヶ沢中学校地域防災委員会
- 事業担当課： 危機管理課

3 事業を実施する上での役割分担

■ 団体の役割

栗中地域の各松戸市指定収容避難所に開設と運営を行う小委員会を結成する。
栗中地域の各松戸市指定収容避難所毎に開設運営の手引きを作成する。
栗中地域の各松戸市指定収容避難所にて防災訓練を行う。

■ 担当課の役割

災害弱者(傷病者、要援護者、妊婦、乳幼児等)救護および支援の仕組みを地域の専門家の協力を得て構築する。

4 事業の内容

※ 実施した事業内容について、事業毎に整理した上で記載してください。

I 栗ヶ沢中学校防災訓練の実施

日付	作業内容
6月6日	小委員会発足、訓練概要打ち合わせ
7月25日	第二回小委員会、概要決定
8月29日	第三回小委員会、訓練手引き検討
10月10日	第四回小委員会、詳細打ち合わせ
10月17日	訓練チラシ配布開始(添付資料参照)
11月10日	訓練用ダンボール搬入
11月13日	訓練前日準備
11月14日	訓練当日参加者 279名
12月12日	訓練まとめ(反省等)

II 栗ヶ沢小学校・貝の花小学校防災図上訓練の実施

日付	作業内容
12月5日	訓練概要打ち合わせ
12月12日	訓練打合せ
12月20日	図上訓練実施 参加者 40名

III 講演会の実施

日付	作業内容
----	------

9月19日	講演会打ち合わせ
10月10日	講演会打ち合わせ
11月21日	講演会打ち合わせ、チラシ配布(添付資料参照)
11月28日	講演者との打ち合わせ
12月12日	第一回講演会 講師蓮本浩介氏 参加者約50名
1月16日	講演会打合せ
1月21日	講演者との打合せ、チラシ配布(添付資料参照)
1月31日	講演会打合せ
2月13日	第二回講演会 講師名取直美氏 参加者約80名

IV 要配慮者支援会議の実施

日付	作業内容
9月17日	会議概要打ち合わせ
9月25日	会議第一回
11月24日	打合せ
12月15日	打合せ
12月25日	会議第二回
2月22日	打合せ
2月26日	会議第三回

V 栗防通信配布の実施

日付	作業内容
6月6日	第19回栗防委員会、内容打合せ
7月1日	印刷(6200枚)、配布開始(添付資料参照)
12月12日	第22回栗防委員会、内容打合せ
2月13日	第23回栗防委員会、内容打合せ
3月15日	印刷(8000枚)(添付資料参照)
3月21日	配布開始

5 事業成果について

(1) 事業目的の達成について

※計画時に設定した成果目標が、どの程度達成されたのかを記載してください。

- ① 栗中地域の各松戸市指定収容避難所に開設と運営を行う小委員会を結成する。
→ 目標通りに栗中地域の小中学校すべてに小委員会の結成を行うことができた。
- ② 栗中地域の各松戸市指定収容避難所毎に開設運営の手引きを作成する。
→ 目標通りに栗中地域の小中学校すべてで手引の作成を行うことができた。

- ③ 栗中地域の各松戸市指定収容避難所にて防災訓練を行い、各参加者を 100 人以上集める。
→ 今年度は栗中のみで実際の防災訓練を予定どおり行い、参加者 279 名を得た。栗小貝小では小委員会メンバーを中心に図上訓練を予定どおり行い、参加者およそ 50 名を得た。
- ④ 自主防災に関する小冊子を作成し、栗中地域全世帯に配布する。
→ 小冊子への記載を予定していたもののうち、重要項目である地域防災組織(小金原連合町会)の進展が見込んでいた通りに進まず、小冊子の作成を来年度以降に延期することとなった。
- ⑤ 災害弱者(傷病者、要援護者、妊婦、乳幼児等)救護および支援の仕組みを地域の専門家の協力を得て構築する。
→ 「小金原要配慮者支援会議」を危機管理課とともに立ち上げ、今年度はその支援の仕組みの骨格を議論し、固めることができた。

(2) 取り組んだ課題の現状について

※解決できたこと、解決できなかったことを記載してください。

大災害時、松戸市は地域住民自身による避難所等の運営を予定しており、これを実現するために避難所開設運営の手引および訓練を行った。全地域町会役員等の意思統一はかなりできたと思われる。しかし、全地域住民への周知には今後も努力の継続が必要である。

また、災害時の要配慮者支援は非常に大きな問題であるが、支援の仕組みを作るための重要な一歩を踏み出せたと考えている。

6 今後の事業展開

※解決できなかった課題にどう対応し、この事業を今後どのように展開していきたいのかを記載してください。

大災害時の避難や、避難所開設運営は継続して訓練や周知を行っていくことが重要と考え、事業を継続していく予定。地域の結束が非常時に重要といわれるが、この地域の結束を考えながら、今後の事業を展開していく。

収支決算書

(単位:円)

【労力換算(限度額算入)】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 660,000	¥ 738,000	¥ ▲78,000	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	栗防委員会拠出金(対象経費分)	¥ 110,000	¥ 52,370	¥ 57,630	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額(b①)	¥ 110,000	¥ 52,370	¥ 57,630	
	事業費収入合計額(b②)	¥ 0	¥ 0	¥ 0	
	栗防委員会拠出金(対象外経費分)(b③)	¥ 20,000	¥ 64,498	¥ ▲44,498	対象外経費を団体会計より拠出
	自己資金、事業費収入等の合計額(C)=(b①+b②)+b③	¥ 130,000	¥ 116,868	¥ 13,132	
市	協働事業負担金(D)	¥ 500,000	¥ 471,321	¥ 28,679	←精算額
合計額(E)=(C+D)		¥ 630,000	¥ 588,189	¥ 41,811	

【支出】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 10,000	¥ 60,000	¥ ▲50,000	外部講師謝礼(講演会2回@30,000)
	印刷製本費	¥ 490,000	¥ 138,230	¥ 351,770	チラシ13,000枚 講演会77@6,600枚 栗防通信 24,000枚 訓練手引書100部の他 委員会開催案内、議事録など印刷
	避難所開設運営訓練消耗品費	¥ 100,000	¥ 322,961	¥ ▲222,961	訓練運営用ベスト100着、炊き出し用エプロンやマスク、三角巾、ペーパータオル、ポリ袋、スランテープ、プリンターインクやコピー用紙他
	使用料	¥ 10,000	¥ 2,500	¥ 7,500	要配慮者支援会議の会場使用料
	対象経費の合計(F)	¥ 610,000	¥ 523,691	¥ 86,309	
(対象外)	食糧費	¥ 20,000	¥ 1,196	¥ 18,804	事務局会議のお茶代
	交通費	¥ 0	¥ 18,350	¥ ▲18,350	危機管理課他の打合せ時交通費
	使用料	¥ 0	¥ 2,458	¥ ▲2,458	事務局や小金原連合町会、小金原地区社協との打合せの会場使用料
	備品	¥ 0	¥ 40,352	¥ ▲40,352	委員会や訓練時使用のスリッパ、給水ボトル
	謝礼	¥ 0	¥ 1,080	¥ ▲1,080	車椅子寄贈に対する謝礼
	事務消耗品	¥ 0	¥ 324	¥ ▲324	コピー用紙
	写真	¥ 0	¥ 630	¥ ▲630	避難訓練の記録写真
	振込み手数料	¥ 0	¥ 108	¥ ▲108	(株)パルジオへの振込み手数料
その他経費の合計額(G) = (b③)	¥ 20,000	¥ 64,498	¥ ▲44,498		
合計額(H)=(F+G)		¥ 630,000	¥ 588,189	¥ 41,811	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金(D)が、対象となる経費(F)欄の90%以内であること。
- 2 自己資金(b①)欄が、対象経費(F)欄の10%以上であること。
- 3 ~~自己資金(b①)欄が、「対象経費(F)＝事業費収入(b②)＝協働事業負担金(D)」と同額となること。~~
- 4 協働事業負担金(D)が、自己資金(b①)欄に労力換算額(A)欄を加えた額を超えないこと。
- 5 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 28,679
-----	----------

栗ヶ沢中学校地域防災委員会
委員長 小林俊夫

収支内訳書

【事業費の収入額】

区分	科目	金額	内 訳	摘 要
団体	栗防委員会拠出金 (対象経費分)	¥ 52,370		事業費の一部を拠出
	寄附金	¥ 0		
	栗防委員会拠出金 (対象外経費分)	¥ 64,498		
	自己資金の合計額	¥ 116,868		
市	松戸市負担金	¥ 471,321		
合 計 額		¥ 588,189		

【事業費の支出額】

	科目	金額	支出内訳	説明事項 (用途など)
負担金の交付対象経費	1 報償費	¥ 60,000	30,000円*2回	講師謝礼 蓮本氏 30,000円×1回 講師謝礼 名取氏 30,000円×1回
	2 印刷製本費	¥ 138,230		防災訓練手引書や訓練避難チラシ (6,120) 印刷代 蓮本、名取氏講演会のチラシ 6,576部配布 栗防通信”01~05” 24,190部配布他
	3 消耗品費	¥ 322,961		避難訓練運営員ベスト100着エプロン*30、マスク30 プリンター用インク、コピー用紙 (A3、A4)、ペーパータオル 、三角巾、ポリ袋、ラップ、スランテープ他
	4 使用料	¥ 2,500		要配慮者支援会議の会場使用料 (6-7会館)
	対象経費の合計	¥ 523,691		
その他経費	1 食糧費	¥ 1,196	ペットボトル	事務局会議のお茶代
	2 交通費	¥ 18,350	760円*17回他	交通費バス(支所バス停~北小金バス停) @210 電車(北小金駅~松戸駅) @170
	3 使用料	¥ 2,458		事務局や小金原連合町会、小金原地区社協との 打合せの会場使用料
	4 備品	¥ 40,352		委員会や避難訓練時使用のスリッパ、給水ボトル
	5 謝礼	¥ 1,080		車椅子寄贈に対する謝礼
	6 事務消耗品	¥ 324		コピー用紙
	7 写真	¥ 630		避難訓練の記録写真
	8 振込み手数料	¥ 108		(株) パルジオへの振込み
	その他経費の合計	¥ 64,498		
合 計 額		¥ 588,189		

活動状況報告書

1 事業名称 協働による「協働のまちづくり講演会」事業

2 実施主体

- 団体名：特定非営利活動法人まつど NPO 協議会
- 事業担当課：市民自治課

3 事業を実施する上での役割分担

- 団体の役割
 - 講演会 企画運營業務全般（講師・パネリスト調整）
 - 講演会ブース出展企画・団体調整等運営
 - 講演会 拡大企画会議開催
 - 市民アンケート集計
 - 市職員アンケート集計
 - 市民活動・協働事例情報誌 制作
 - 広報等媒体原稿制作
 - 事業報告書制作
 - 会場の検討・確保（聖徳大学との調整）
 -
- 担当課の役割
 - 【職員研修関連】
 - 開催日時等の庁内調整
 - 協働推進員を中心とした市職員参加呼びかけ
 - 市民参加者の把握
 - 市職員参加者の把握
 - 【市民に向けた行政サービス】
 - 会場の検討・確保（公用等手配）
 - 市内公共施設を通じた講演会開催情報の発信
 - 市広報誌「広報まつど」への掲載

4 事業の内容

※ 実施した事業内容について、事業毎に整理した上で記載してください。

I 講演会企画運営

日付	作業内容
4月11日～	事業企画開始（団体内打合せ初日）
5月22日	市民自治課との協議
5月26日	聖徳大学会場下見
5月29日	講師（CRファクトリー・五井潤氏）訪問
6月4日	聖徳大学生涯学習研究所ご挨拶

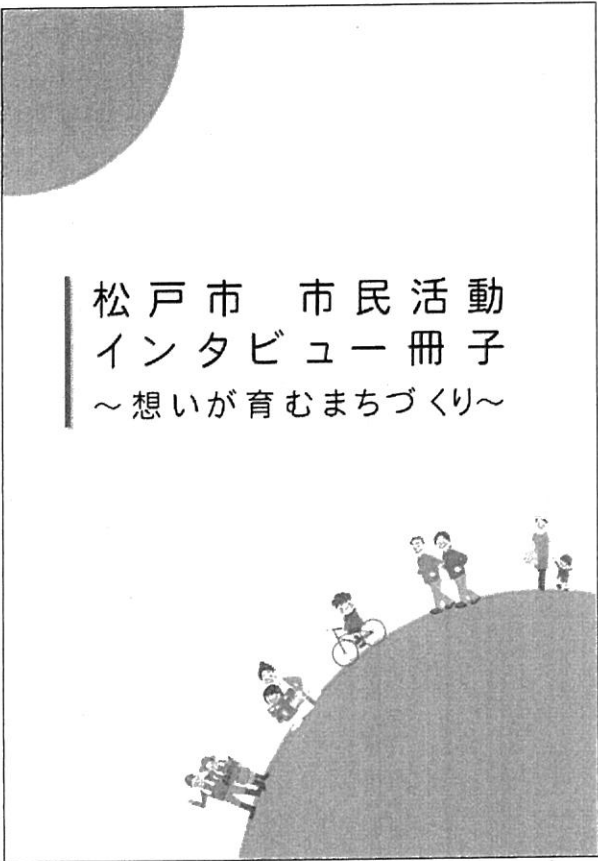
6月8日	市民自治課との協議
7月27日	市民自治課との協議
8月10日	市民自治課との協議
8月21日	拡大企画会議
9月7日	市民自治課：講師（CR ファクトリー・五井潤氏）ご挨拶
9月8日	中間振り返り
9月9日	パネリスト大島氏打合せ
10月14日	パネリスト所氏打合せ
10月19日	聖徳大学・障害福祉課下見
10月27日	市民自治課との協議
11月4日	市民自治課とのふりかえり
2月16日	三者ふりかえりの会



II 協働・市民活動情報制作

日付	作業内容
7月	インタビュー団体検討
8月	インタビュー候補団体との調整開始
9月～	訪問インタビュー開始
	並行して原稿デザイン依頼・制作

10月28日	印刷物・冊子受取
10月29日	講演会にて配布・各担当課へ



松戸市 市民活動
インタビュー冊子
～想いが育むまちづくり～

※冊子別添

<p>葉ヶ沢中学校地域防災委員会 「災害、助け合い、原点は『近助』」 インタビュー：所 正明 さん</p> <p>■葉ヶ沢中学校の教師先生の呼び掛けから始まった…</p>  <p>一 初めに、葉ヶ沢中学校地域防災委員会（以下、奥防）発足のきっかけは？</p> <p>4年前の秋がきっかけになります。その年の春先に8・11が発生しました。当時の奥中の教師先生より学校の危機管理の点から呼びかけがありました。当初は学校上層でしたが、先生は次々に異動があること、避難所の建設に地域に委ねられていることなどから、葉ヶ沢学区の町会・自治会主催の防災委員会となりました。</p> <p>一 所さんが奥中防災委員会へ参加した理由は何だったのですか？</p> <p>私自身も自分の属する町会で高齢化対策委員会を立ち上げ、地域社会での福祉面での活動を少し行っていました。その意味で、防災＝福祉といった観点で</p> <p>の関心があり、奥防の防災活動に少しでも福祉の観点を入れて考えて欲しいと思い参加しました。</p> <p>一 助成事業を受けるといことで行政との関係をつくっていったようですが、特に行政との関係を築こうということではないですか、我々の防災活動は松戸市地域防災計画を形作っていたということもあります。ただ、23年の秋からスタートして、専年の秋には25年度の松戸市の助成事業に採択され、25、26年度の2年間、制度を活用しました。念いだけではありませんが結果的には早いも知れません。</p> <p>理由は単純で地域社会のききかたや市民のボランティア活動と違い、直接経費はなんでもかんでも掛かります。その活動資金の一部を松戸市の助成事業が負担してくれるというので、それでは活用しようとなり、応募したのです。</p> <p>一 今年度からは協働事業ですね。</p> <p>助成事業の2年目に入り、市民自治課からの協働事業にどうするかという声かけがあったことになりました。防災活動を深化させるためにはより多くの予算、</p>	<p>またこれまで以上の行政との関係の強化が必要になると、私たちの活動への期待があるのであれば応募し採択されたのです。</p> <p>■市民活動助成から協働事業へ</p>  <p>一 奥防の活動とは、松戸市でも例のない広域での自主防災活動を行なっている点が大きな特徴だと思えますが、活動の初期の段階から資金面の調達という事があるのでしょうか、行政との関係を築いてきている、所さんご自身も含めて行政との関わりについての感想がありますか？</p> <p>実は、今は現役の頃の仕事を閉めて5年間の調査のような事を行って、いまして、本省の方々とは良い付き合いがありました。その中で、市町村の方との付き合いも発生するのですが、困らぬ限りで市町村では最初から局長クラスの方と会うような感じでした。</p> <p>しかし、現在のような市民活動の中で行政との関係では、自分の子ども時代の若い方々への付き合いがあり、昔はそれだけで活力の源で、市役所の若手の職員の方との接点は地味なもので、</p> <p>一 協働事業であることを意識する、あるいはメリットを感じる旨はありますか？</p> <p>例えば、私たちの一番の目標としての避難所の運営については、行政サイドは地域で運営を行うって欲しいと言っています。実際は、行政が運営を行なうのには無理がありますので地域がやればよい、やるしかないと思っています。避難訓練なども継続のための必要機会づくり、準備を行なうのですが、この小委員会が実際に災害が発生し避難所が稼働した場合は、避難所の運営委員会として機能することになります。</p> <p>しかし、どうも避難所の運営については協働事業としてのメリットはあまり感じません。むしろ、要配慮者支援としての会議については協働事業としてスタートする前から、会議の構成メンバーからして協働事業に近い形で進められている感じですが、正式に協働事業になりましたので、会議そのものも奥防と広域管理課との共同主催になり、その分のメリットを活かすことをもっと考えたいと思います。</p> <p>防災委員会には葉ヶ沢学区に当たる11</p>
---	--

5 事業成果について

(1) 事業目的の達成について

※計画時に設定した成果目標が、どの程度達成されたのかを記載してください。

【目的概要】

協働の知識・事例共有について、市民活動団体関係者、一般市民、市職員が一堂に会することにより、協働に関する知識を学び、その事例等を共有する場として講演会を開催する。

市民ニーズの把握・公民の信頼関係構築についても、講演という座学と合わせて、双方が顔を合わせ、市民活動団体の「生」の活動・声に触れる場を組み込む。

【目標】

① 講演会企画運営

- 市民参加者の平成 25 年度（前年度）比 5 割増を目指す。

→ 目標に至らなかった。(H25 : 42 人→H27 : 27 人)

(評価) 開催日時が平日日中となってしまったことにより、NPO 関係者・職員の参加が期待できなかったことが挙げられる。また、同年に実施した町会・自治会への呼びかけを今回は行わなかったことも、来場者数に影響したと思われる。

- 市民参加者のうち、講演会現在で NPO・市民活動に関わりを持っている市民が 2 割以上となり、協働の生まれる可能性を高める。

→ 達成した。

(評価) 27 人中、22 人が市民活動に所属・活動をしており、他、共催の成果として聖徳大学からの参加、松戸青年会議所からの参加、市議の参加もあった。

- 市民参加者の年代・性別・職業等、幅広い参加を目指し、アンケートで属性別集計により評価する。

→ 達成した。

(評価) H25 実績ではアンケートで提出されたものの集計で 60 歳以上が 6 割近くを占め、50 歳代以下は 1 名という状況だったが、今年度は、20 代から 70 代まで幅広い参加につながり、市民活動団体で見ても活発な事業をしている団体から参加があった。

- 行政・市民の相互理解の進展を、市民／市職員アンケート・ラウンドテーブル報告等を通じて、事後評価する。

→ 進展があった。

(評価) 市民アンケートから、行政・市民・NPO が一同に会して、意見交換する良い機会という評価、職員アンケートからもいろいろな方と話せてよかったという感想があがっている。一部、講演会という名称と、参加者間の対話に重点が寄っていることへの批判が、職員からはあった。

② 協働・市民活動情報制作

- 市民活動団体の訪問インタビューを 8 件以上実施し、多様な活動の情報を提供する
 → 十分な達成に至らなかった (7 件)
 (評価) 協働事例として紹介しようと考えていた団体にインタビューを固辞されるなど印刷までの調整がつかず、件数は 7 件にとどまった。しかし、子育て・高齢者福祉・国際・子どもの健全育成・環境・防災と、多岐にわたる分野の事例を集め紹介するという目的は達成した。
- 本講演会・協働推進員を通じて庁内各所に配布することで、行政内において市民活動への理解と共感、協働の可能性を広げる。
 → 達成した。
 (評価) 協働推進員に講演会会場で配布し、市民活動の啓発に活用した。
- 協働事業終了後も、本制作内容のデータ利活用を検討する。
 → H27 年度達成予定。
 (評価) 平成 27 年度協働事業として、協働のまちづくり協議会に提案が採択され、その事業の中で Web 記事としての公開と拡充を組み込んでいる。

(2) 取り組んだ課題の現状について

※解決できたこと、解決できなかったことを記載してください。

既存事業の課題	今回の達成点	現存する課題
講演会のマンネリ化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外部講師と、他地域事例のパネリストを招くことで、多様な事例を紹介し、アンケート評価につながった。 ■ 拡大企画会議にて講演会のセッティングを検討することで、より多くの市民目線での講演会を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講演会に受動的な意識で臨む職員の、名称と内容のギャップへの批判があった。
協働についての知識と事例の共有	<ul style="list-style-type: none"> ■ 官民協働・行政経験のある講師と、他自治体の先進的協働事例を含んだパネルディスカッションは好評価だった。 ■ 協働・市民活動情報誌は、新し 	特に無し

	い視点・ストーリー性を提供できた。	
市民と行政の信頼関係構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内団体の「顔」「姿」を知る機会として機能した。 ■ 肩書を外しての対話の場として成功した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ポスターセッションが短くなってしまったため、満足度が他プログラムに比べて低かった。
講演会開催条件	<ul style="list-style-type: none"> ■ 聖徳大学生涯学習研究所との共催により、来場しやすく快適な会場で実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平日日中開催は、人事課と研修予算の兼ね合いにより、実現できなかった。今後も、平日開催を前提として、事業を模索する必要がある。 ■ 共催等の調整に時間がかかり、広報が遅くなってしまい、来場者数が低調にとどまった。

本事業の市行政の実施前の課題認識は、地域社会の担い手である市民活動団体（市民）と行政（市職員）が、協働に関する知識、実際に松戸市で行われた事例等を十分に共有できていない現状が、協働のまちづくり推進における課題と考えていた。来場職員アンケートから協働に関する知識は依然として必要な一方、市内の事例へのニーズよりも、「団体情報を得る」「市民活動を体験する」ことへの職員ニーズがあることがわかった。

提案者であるまつど NPO 協議会の課題認識である「市民と市職員の信頼関係構築」については、市民・職員アンケート双方からもいろいろな方と話せてよかったという感想があり、達成できたと考える。

今年度実施しての課題としては、やはり平日日中開催という点での参加者数の達成の難しさであり、いかに良い講演会やプログラムだったとしても、来場ハードルが高いと一般市民への啓発には困難が伴うことを再確認した。他方、関心ある市民・協働を検討している NPO は、それでも来場した実績はあるため、啓発事業としてどういった展開をしていくかが今後の課題である。

今回の事業では、講演会の会場等、各種調整に時間がかかってしまった結果、市民活動情報誌のインタビューに関して進行が遅くなり、インタビュー調整と合わせてかなりずれ込んでしまった形となった。次年度は会場調整等もスムーズに行くことが予想されるため、余裕をもった進行管理ができるよう、改善を見込む。

なお、事業前に予期できなかった内容として、情報保証に関する調整がある。市の講演会実施時の基準と、現場での判断の曖昧さがあり、入念な調整が今後必要と感じた。事前申し込み制の導入も含め検討していきたい。

6 今後の事業展開

※解決できなかった課題にどう対応し、この事業を今後どのように展開していきたいのかを記載してください。

- 協働しての講演会取り組みが初めてということもあり、調整に時間がかかったことと、団体側として進行管理が遅くなってしまった点があったため、今年度のスケジュールを参考にすることで、スムーズな事業進行を目指す。
- 信頼関係を構築するためのプログラム自体は評価が高いが、講演会という名称の想起する内容とのギャップに指摘があったため、次年度の事業で名称を検討したい。
- ポスターセッションについて十分な時間が取れず、参加者からの評価も低調だったため、時間配分に検討の余地がある。
- 協働推進員全員が参加する形での土日・夜間開催は庁内調整として困難であるため、成果指標の設定と共に、担当課・市民活動団体双方で検討をする。

(第6条関係)

収支決算書

(単位:円)

【労力換算(限度額算入)】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 288,000	¥ 254,000	¥ 34,000	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金(対象経費分)	¥ 31,200	¥ 27,558	¥ 3,642	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	寄附金		¥ 0	¥ 0	
	自己資金の合計額 (b①)	¥ 31,200	¥ 27,558	¥ 3,642	
	事業費収入合計額 (b②)	¥ 0	¥ 0	¥ 0	
	団体拠出金(対象外経費分) (b③)	¥ 3,000	¥ 2,447	¥ 553	対象外経費を団体会計より拠出
	自己資金、事業費収入等の合計額 (C)=(b①+b②)+b③	¥ 34,200	¥ 30,005	¥ 4,195	
市	協働事業負担金 (D)	¥ 280,800	¥ 248,020	¥ 32,780	←精算額
	合計額(E)=(C+D)	¥ 315,000	¥ 278,025	¥ 36,975	

【支出】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 170,000	¥ 127,207	¥ 42,793	講演会講師謝礼、パネリスト謝礼
	消耗品費	¥ 10,000	¥ 25,816	¥ ▲15,816	模造紙・付箋紙等会場掲示物作成、コピー用紙等
	食糧費	¥ 11,000	¥ 2,851	¥ 8,149	登壇者水代、ワークショップ 茶 菓子等
	印刷製本費	¥ 100,000	¥ 97,220	¥ 2,780	ポスター(4C)500枚、A5冊子(20P・表紙4C)300部
	委託料	¥ 20,000	¥ 20,000	¥ 0	印刷物デザイン委託
	通信運搬費	¥ 1,000	¥ 2,484	¥ ▲1,484	振込手数料等
	対象経費の合計(F)	¥ 312,000	¥ 275,578	¥ 36,422	
(その他経費)	交通費	¥ 3,000	¥ 2,447	¥ 553	講師打ち合わせ場所への移動、市内の移動
	その他経費の合計額(G) = (b③)	¥ 3,000	¥ 2,447	¥ 553	
	合計額(H)=(F+G)	¥ 315,000	¥ 278,025	¥ 36,975	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (D) が、対象となる経費 (F) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (b①) 欄が、対象経費 (F) 欄の10%以上であること。
- 3 ~~自己資金 (b①) 欄が、「対象経費 (F) = 事業費収入 (b②) - 協働事業負担金 (D)」と同額となること。~~
- 4 協働事業負担金 (D) が、自己資金 (b①) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 5 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 32,780
-----	----------

特定非営利活動法人まつどNPO協議会
理事長 岩橋 秀高



収支内訳書

【事業費の収入額】

区分	科目	金額	内訳	摘要
団体	団体拠出金	¥ 27,558		事業費の一部を拠出
	寄附金	¥ 0		
	団体拠出金 (対象外経費)	¥ 2,447	交通費	
	自己資金の合計額	¥ 30,005		
市	松戸市負担金	¥248,020		
合計額		¥278,025		

【事業費の支出額】

	科目	金額	支出内訳	説明事項（用途など）
負担金の 交付対象 経費	1 報償費	¥ 127,207	講師 95,000 要約筆記 32,207	講師謝礼 CRファクトリー 70,000 キズナメール 20,000、栗防 5,000 要約筆記 5名
	2 消耗品費	¥ 25,816	WSボール紙 15,228 その他文具 10,588	
	3 食糧費	¥ 2,851	WS用茶・菓子類	
	4 印刷製本費	¥ 97,220	冊子 90,340 ポスター・チラシ 4,750	ほか、コピー代等
	5 委託料	¥ 20,000	ポスターデザイン、 イラスト一式	
	6 通信運搬費	¥ 2,484	振込手数料	
		対象経費の合計	¥275,578	
その他 経費	交通費	¥ 2,447		講師打ち合わせ場所への移動、市内の移動
	その他経費の合計	¥ 2,447		
合計額		¥278,025		